

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799100090		
法人名	株式会社フィールド		
事業所名	グループホームこころあい三津屋		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	532-0036 大阪市淀川区三津屋中2-11-2		
自己評価作成日	令和2年1月3日	評価結果市町村受理日	令和2年6月29日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2799100090-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)		
訪問調査日	2020年6月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・パーソン・センタード・ケアを心がけ、その人その人の思いやこれまでの生活習慣を尊重した支援を行っている。
その人らしい暮らしができるよう、日課などを一緒に決めて個々のペースで過ごして頂ける環境作りに取り組んでいる。
・職員のやるべきことに対し、業務中心ではなく利用者とのコミュニケーション、傾聴を重視するよう指導を行いながら取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは昔から住んでいる方が多い庶民的な街並みにあり地域との関係をとっても大切にしています。自治会にも参加しているので地域の行事は率先して手伝いをしています。近隣には、ドラッグストア・コンビニ等があり散歩での買い物や民家の庭先の花壇などで気軽に楽しんでいます。グループホームの玄関を入ると広がる畳敷きのホールでは利用者は上靴を履かずに靴下や素足で畳にふれ、温かみを感じる生活をしています。今回は新型コロナウイルス感染予防の為、1階事務所で管理者、計画作成担当者とのヒヤリングと調査書類の確認となりましたが、利用者を守り、施設を守るために、施設と家族が共に協力し、感染予防に懸命に努力しているグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(2ユニット共通)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	○	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である「心豊かに その人らしい 安心ある暮らしを大切に 愛と笑顔で共に歩む」を+D6:E108各フロアに掲げ理念を共有し日々のケアの実践につなげている。又、運営推進会議等で地域の方々にも認知症高齢者の理解と協力が得られるよう取り組みを行っている。	理念は事務所の中の分かり易い場所に掲げてあり、各階にも掲示してあります。管理者と職員は、「心豊かに その人らしい 安心ある暮らしを大切に 愛と笑顔で共に歩む」を意識してやさしい力の共有に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定例の自治会会議には班長として入居者様に代わって出席し、自治会行事にも積極的に参加し、入居者様と共にお手伝いさせて頂いている。また認知症サポーター養成講座を開催して、近隣の地域住民の理解と協力が得られるよう取り組みを行っている。	自治会、行事等にも積極的に参加、地域の方とは顔なじみになっています。認知症サポーター養成講座なども開催し、近隣の方が気軽に相談に来られ、地域との協力に取り組んでいます。	地域との連携をより深めるため、認知症カフェについても再度準備されてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括、町内会主催の行事や淀川区家族会等に参加し、認知症高齢者支援のあり方や、周りの方の理解を深めて頂けるように、日々の支援報告、介護をされている地域の家族様の相談・援助の手助けを心掛けている。ホーム見学も常に受け入れられるよう準備している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の生活状況・事故報告・地域参加報告等を行い、皆様から意見、助言を頂くようにしている。又、該当する月例の全体会議において職員に報告し、情報共有を図ることを通じてサービス向上を常に意識するようにしている。また身体拘束適正化委員会を設置して、定期的に勉強会と委員会を行っている。	2カ月毎に運営推進会議を開催して、日々の生活状況、事故報告・身体拘束勉強会等を報告し、意見交換の機会としています。全体会議で職員に報告し共有を図っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者、家族様からの様々な相談等に対しての助言を頂いている。又、日常の支援のあり方や入居者の状況報告をさせて頂いている。事故報告書の提出も行って。また、介護支援専門員協会支部長として、施設や居宅のケアマネジャーと勉強会、情報の共有など行っている。	日ごろから相談や事故報告書等提出し、担当者との協力関係を築くように努めています。介護支援専門員協会支部長として施設や在宅のケアマネジャーとの連携ができています。	

自己	外部	○	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを通して、月例の全体会議で勉強会を実施し、全職員に周知徹底している。日々の業務・ケアにおいて不適切な言動が行われないう、職員間で注意するよう心掛けている。外出時は安全の為職員が付き添うが、精神的な拘束は与えないよう配慮している。また「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を結成して取り組みを行っている。	グループホームころあい身体拘束マニュアルを通して全体会議で勉強会を実施し職員全体で周知徹底しています。スピーチヘイト、スピーチロック等にも配慮して、言葉かけを意識したケアの向上に努めています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを通して、月例の全体会議で勉強会を実施し、前職員に周知徹底している。又、日々の業務でも非意図的な行為、不適切な行為が行われていないか職員間で啓発活動に努めている。又、管理者・ユニットリーダーは職員の精神的なケア、職場の環境作りに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月例の全体会議で勉強会を実施することで全職員に理解を深めてもらう。又、成年後見人を活用されている入居者様に関しては、関係者間と話し合う機会をもち、個々の必要性とその理解を深めていけるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間をとりわかりやすく説明等行っている。疑問、不安な点においての相談は丁寧に対応させて頂き、正確かつ納得して頂ける契約ができるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族様には意見、要望がないかとアンケートを実施している。外部者に対しては運営推進会議にてその機会を設けている。その後月例の全体会議で反映されるように話し合いの場を設けている。	アンケート調査をして意見要望の把握に努めています。家族会や運営推進会議などの機会も意見を反映できるよう活用しています。メールを利用して家族との連絡をスムーズに行い運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートを実施している他、月例の全体会議で意見、要望を話し合う時間を設けている。又、職員面談を実施し、個別に時間を設けている。それにより各職員の意見等を参考にして、より良い運営に反映できるように努めている。	毎月の全体会議や、特別に時間をもうけ全員に個人面談を行い意見を聴くように努めています。日頃から業務体制の見直し等改善できる事はすぐに指示を出し働きやすい環境の整備に努めています。	

自己	外部	○	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員には、職務領域について把握、理解してもらいながら「優秀な人材」の育成に共同で取り組み、各自が向上心をもって働ける職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「優秀な人材」育成の取り組みとして、個々のスキルアップの目標を立てて信頼の課題を明確にし、日々のケアの振り返りも含め、働きながらケアの質の向上に努めている。「仕事のできる人」よりは「共に生活ができる人」の観点を重要視している。法人内外の研修、資格取得へのサポートも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淀川区グループホーム連絡会に参加。情報交換や意見交換を活発に行っている。又、日々のケアにおける勉強会である「現場の声」、大阪市グループホームネットワークでの同業者との交流、地域包括のオレンジネットに参加するなどして地域支援に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者、家族様をはじめとして、今までの生活を支えてこられた方々から情報収集を行い、まずは信頼関係の構築を目指し、傾聴の姿勢で寄り添い、個別支援の方法を考えている。入居前には馴染みの関係が作れる支援として、ホームの行事等が開催されるさいには招待を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談では家族様とも十分な時間を設けて困っていることや不安なこと、要望などに傾聴の姿勢で対応を行っている。面談は安心されるまで何度でも行い、信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	○	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	先ず入居者様の「出来ていること」、「困っていること」にシテンを置き、その中で今必要とされている支援を見極め、入居者、家族様と共に考え、共有し種々のサービスプランを作成して実践できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の感情に共感の気持ちで寄り添い、日々の生活で「できること」を見つけ、役割を担ってもらえるよう働きかけ、ホームでの共同生活に充実感を持って頂けるよう支援している。職員も「入居者様と共に生活している」という姿勢で接するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日々の様子や職員の思いを丁寧に伝えることにより、家族様、職員の思いを共有し、共に本人様を支えて行く為の協力関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様のこれまでの馴染の場所や人間関係を継続できるように個々それぞれの生活習慣を尊重し、支援している。又、近隣住民や社会資源等とも馴染の関係が築けるよう地域の催しものには積極的に参加するようにしている。	馴染みの方には、職員が手伝い、暑中見舞いや年賀状を出し、思い出が継続できるように支援しています。近隣の祭りや校区の行事に参加し地域との交流をも大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者様の生活歴や性格を尊重しながら、共に過ごす楽しみを感じて頂けるように努めている。入居者様同士の会話や、コミュニケーションにおける場作りの調整役として支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様のご逝去された場合、その家族様には手紙や電話でその後のご様子をお伺いしたり、ホームへ立ち寄って下さるようお伝えしている。又、他施設へ移られた入居者様においても、当ホームで馴染の関係にあった入居者様は職員同伴で面会に訪れたりもしている。		

自己	外部	○	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人様の些細な言動にも耳を傾け、何を望んでいるのか推測し職員全体で話し合いを常に持ち共有に努めている。本人様本位を念頭に困難事例にも全職員で取り組む姿勢をもち家族様からの情報収集などをパーソンセンタード・ケアに取り組んでいる。	パーソンセンタード・ケア(介護の方法の一つ)で相手の求めているニーズの理解に取り組み、本人本位の関わりに職員全体で取り組む姿勢を目指しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族様、これまで関係のある方々からどのような生活をされていたかの聴き取りなどを行い、前職員間での共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活リズムを把握し小さな変化にも気付けるように日々の関わりを深め、職員間では介護記録や日々のコミュニケーション等で把握・共有できるようにしている。また、本人の「できること」に着目し、出来る限り自立した生活を送って頂けるよう支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族様から日々の関わりの中で要望や不安などを聴き、介護計画に反映させている。又、居室担当を設け、ご本人の感情面や精神状態にも注意を向け、月例のフロア別会議で振り返りや新たな取り組みについての意見交換を行い、介護計画を実のあるものにするよう努めている。	本人 家族から要望や意見等を聴き、介護計画に反映させるよう努めています。居室担当を決めてより本人の状況を把握することで振り返りや会議での意見交換を行い介護計画を共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、ケアプランに沿って支援する中、身体的症状、感情の変化等を記録し、職員間で共有している。又、就業開始前には必ず個別ファイルを確認してから業務に入るよう義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族様の状況に応じて通院や往診等の必要な支援は柔軟に対応し、個々のまんぞくを高め、信頼関係に努めている。		

自己	外部	○	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署とは共同で避難訓練行っている。又、地域のボランティアの方にも訪問して頂き、入居者が楽しく過ごしてもらう為のレクリエーション等の開催に協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の他、以前からのかかりつけ医にも受診ができるよう家族様と協力して、通院の介助を行ったり、訪問リハビリを利用するケースもある。複数の医療機関との関係を密に結んでいる。	一人ひとりの受診状況について、本人・家族から意向を聴き取り、協力医、かかりつけ医に受診しています。家族とはメールや電話で頻繁に受診方法を話し合っています。夜間や緊急時にはオンコール対応しています。身寄りのない人は後見人と相談し受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護師は気軽に相談できる関係ができており、看護師との医療連携が密にとれる体制ができています。迅速かつ安全な対応を実施しており、毎朝各入居者のバイタルと容態を報告し、情報共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人様への支援方法に関する情報を医療機関に提出し、入院による精神が不安定になることを極力防ぐべく医師と話す機会をもち、ホーム内での対応が可能な段階で、なるべく早く退院できるようにアプローチしている。また、頻繁に見舞いを行うようにしており、同時に家族とも情報共有しながら、回復状況等早く退院できるよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する支援方針については家族、医師、看護師、職員間で話し合い、共有した支援方針を定めている。又、状態の変化があるごとに本人様の思い、家族様の気持ちの変化にも配慮し、精神的にも支援が行えるよう取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針と対応については、契約時に説明しています。本人・家族、医師、看護師、職員間で十分に話し合いが持たれ、共通した認識で対応しています。	終末期の対応について、本人・家族が不安のないように、また職員の精神的な負担軽減のためにもマニュアルを作成されてはどうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスクマネジメントに関しては、全職員が月例の全体会議で勉強会を行い、体得、習得するようにしている。又、緊急時対応マニュアルを整備し、その理解への周知徹底を図っている。消防署の協力を得て、救急手当や心肺蘇生等の研修を実施し、全職員が対応できるようにしている。		

自己	外部	○	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難経路の確認、消火器の使い方及び実際に避難する訓練を定期的に行っている。又、マニュアルを作成し、月例の全体会議で勉強会を行い全職員に周知徹底している。地域との協力体制については自治会や運営推進会議で協力をお願いしている。	地震、台風、火災等、災害対策マニュアルは消防署の指導で作成し、避難訓練をしています。非常用の食料・水、カセットコンロ、袋等は一括して2階に保管しています。警察、消防署との協力体制は自治会参加時、運営推進会議等で確認を得ています。消火器、非常口は各階に設置しています。	非常食品、備品は2階に一括して備蓄保管されていますが、災害状況等により、より迅速に対応する為にも各階に備蓄保管されてはどうでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。月例の全体会議において勉強会を行い、全職員に周知徹底している。日々の関わりの中でユニットリーダーを中心に不適切な対応になっていないか、職員間で啓発活動を行い確認合っている。	毎月1回、月例会において、プライバシー保護の研修を行い、言葉使い、対応等共通した認識のもと、介護を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者本位で生活が送れるように思いや希望を傾聴し、自己決定できるように複数の案を提案し、一人ひとりに声掛けを行うよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに寄り添い傾聴の姿勢で接し、本人様の一日のリズムを把握し、体調に配慮しながらその日その時の本人様の気持ちを尊重しながらその人らしく豊かに暮らして頂けるよう個別に柔軟性をもって接している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の着替えなどではできることは行って頂き、支援が必要な場合は職員が手伝わせて頂きながらその人らしい身だしなみ、おしゃれができるように支援して、社会参加への意欲向上になるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けは個々にできることを見極め、声掛けしながら職員と一緒に行うようにしている。また、入居者様と一緒にテーブルにつき楽しい食事になるよう声掛けを行い食事をしている。遠足などレクリエーション時では外食や特別に発注した料理などで雰囲気を変えて食事を楽しめるよう工夫している。	利用者の能力を活かし、買い物、調理、盛り付け、後片付けなど、できることをしてもらっています。食事は職員も一緒に摂り、話などしながら楽しい時間となっています。コロナ感染予防のため出かけることもできないので、店に食事を注文し、外食の雰囲気を楽しんでいます。	

自己	外部	○	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は個別記録して一日を通して必要量が確保できるよう支援している。又、食事摂取は見守りの中でできるだけご自身で残存能力を活かして行えるよう支援している。咀嚼・嚥下状態が低下している方にはその人に合った刻み食等の食事形態で提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは、口腔ケアを行い個々の能力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。月例の全体会議の勉強会を行って口腔ケアの重要性を全職員に周知徹底している。又、週1回の訪問歯科往診により、口腔内の清潔保持、口腔機能向上の指導が行われている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員間で情報共有し、トイレ誘導を行うことで排泄の自立に向けた支援を行っている。又、声掛けを行い残存機能を活かせるよう見守りと支援を行っている。出来る限り本人がトイレで排泄を行えるよう、又、プライバシー保護にも注意しながら支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるように自立支援を目指しています。入居前にトイレに行けなかった人が、手すりがあり、職員が近くにいる安心感から、自力歩行し、トイレでの排泄が可能になった事例もあります。その人に合った声掛け、さりげない誘導、オムツの処理にも匂い等配慮をしています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員の声掛け、誘導によりトイレで排泄の習慣をつけて頂くよう支援している。水分摂取や胃腸の働きを良くする食事を心掛け、日常的に運動を取り入れたり、薬での対応も行っている。月例の全体会議等で勉強会を行い、便秘の原因や影響についての知識を職員間で共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を決めず、お一人おひとりの希望を聴き本人様のタイミングで入浴して頂いている。自立した入居者様でも背中を流したりしながら見守りを行い安心して入浴を楽しめるよう支援している。また入浴時間は職員とのコミュニケーションを深める時間ということも意識している。	ほとんど利用者は、午前中の中の入浴を希望し、毎日の生活リズムとなっています。家庭のような安心感のある風呂場で、基本的に毎日入浴しています。入浴拒否がある場合は、時間や日にちを変えたり、入浴剤を入れる等対応しています。	

自己	外部	○	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくリビングで過ごして頂けるように、できる限り家事や掃除といった役割をもって頂き、生き生きと活動できる時間が作れるよう支援している。夜間帯にゆっくり休んで頂けるよう心掛けている。体調などに配慮して、時には居室やリビングのソファで休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーを整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は他の職員と二重チェックを行い、間違い防止を徹底している。又、体調面や精神面の変化を常時観察して、変化が観られる場合は詳細に記録をとったうえで医療機関に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの出来ることに着目し、一緒にお手伝いをして頂くようにしている。又、感謝の気持ちを伝えるようにしている。外出や地域行事の参加は入居者と相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりの希望に沿って外出を行い、季節を感じて頂けるよう支援している。又、馴染みの場所や趣味を大切に、これまでの生活習慣を継続できるように心掛けている。普段訪れるのが難しい場所でも、計画を立ててできる限り本人の意向に添えるよう取り組んでいる。	買い物や近所への散歩では、目的に合わせ、花壇の花を見て季節を感じたり、好きな電気屋へ行くなどの外出支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっているので本人様と一緒に買い物に出かけている。本人様に買うものは選んで頂き、支払いもご自身で財布からお金を出してもらうよう声掛け、見守りを行っている。		

自己	外部	○	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様といつでも気軽に電話が出来るように職員からお声掛けを行い、通話して頂けるよう支援している。家族様やご友人からの手紙は職員が読んで差し上げるなどの支援も行っている。お一人おひとりに合った方法で、家族様との良好な関係が築けるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間などの湿度、温度管理を行いながら心地好く過ごして頂けるようにしている。調理においては包丁の音や、おかずの匂いなどで五感の重樹や季節を感じてもらえるような工夫をしている。リビング、居室においては職員と共に壁飾りや手作りのカレンダー等の作品を作り、季節を感じられる空間作りの工夫を行っている。	季節の飾りつけをした居間は、まぶしくないように、レースのカーテンの開閉で光を調節しています。トイレや浴室は温度差がないようにエアコンで調節しています。三人がけのソファに座ってつるぐ男性やユーチューブの音楽に合わせて女性が一緒に歌ったり、楽しく過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルの他に、ソファや椅子を置き、他の入居者様の気配を感じながらもひとりでの時間を楽しんだり、気の合った仲間といられる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はこれまで使い慣れたものを持参して頂き、できるだけ環境の変化がないように配慮している。安心して過ごして頂けるよう、御本人の希望や意向に沿った環境を尊重して居心地のよい生活空間と一緒に作らせて頂く支援を行っている。	畳の居室には仏壇を置くなど、家族の思いを尊重し、今までと変わらない生活空間を心掛けています。衣類の入れ替えも、家族と職員と一緒にしています。利用者が望む居室となるよう、安全面に配慮した衣装ケースなども取り入れています。	安全面を配慮した衣装ケースと共に、出し入れが自分でできる使い慣れたタンスの配置も工夫されてはいかがでしょうか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ等に手すりを設けて安全確保と自立への配慮を行っている。又、場所がわからなくなった場合の支援として、読みやすく大きな文字での表示、絵で表示する等で御本人の自尊心を傷付けず不安を感じさせない支援を行っている。		